

- 問1 九州地方の農業統計において、肉用牛の飼育数が約32万頭と突出して多く、温暖な気候を活かした畜産業と、ビニールハウスなどを活用した野菜栽培を組み合わせた農業が行われている県はどこか。 (2019年 北海道公立入試 類似)
1. 大分県 2. 鹿児島県 3. 宮崎県 4. 福岡県
- 問2 九州地方の各県の産業を比較した統計資料において、豚の飼育頭数やきゅうりの生産量、製造品出荷額が一定の規模を有し、かつ「地熱発電量」が約823百万kWhと非常に多く、全国的にも上位に位置する県はどこか、名称を答えなさい。 (2024年 愛知県公立入試 類似)
1. 鹿児島県 2. 大分県 3. 福岡県 4. 宮崎県
- 問3 日本の諸地域の気候を比較したとき、那覇市の平均気温や降水量の特色について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 栃木県公立入試 類似)
1. 夏と冬の気温差が非常に大きく、札幌市などの北日本の都市と同様に、冬の降水量が1年の中で最も多くなる。
2. 亜熱帯に近い気候のため、年間の降水量は日本で最も少ない部類に入る高松市よりも、すべての月において下回ることはない。
3. 年間の平均気温は福岡市などの九州地方の都市よりも低くなるが、梅雨や台風の影響で年間の降水量は非常に多い。
4. 年間を通じて気温が高く、1月と7月の平均気温の差は、内陸に位置する松本市などの都市と比べて小さい。
- 問4 九州南東部の宮崎県において、冬でも雪がほとんど降らない温暖な気候を活かし、他の地域よりも野菜の成長を早めて出荷時期をずらすことで、高い利益を得るために行われている栽培方法を何というか。 (2019年 北海道公立入試 類似)
1. 抑制栽培 2. 近郊農業 3. 有機農業 4. 促成栽培
- 問5 九州地方南部の鹿児島県や宮崎県では、火山噴出物が積み重なってできたシラス台地が広く分布しています。この地域で、稲作ではなく豚や肉用牛などの飼育を行う畜産業が盛んになった理由として、地形の性質に触れた説明として最も適切なものはどれですか。 (2020年 香川県公立入試 類似)
1. 土壌の水はけが良すぎて、水田に必要な水を保持することが難しくなったため
2. 平坦な土地がほとんど存在せず、家畜を放牧するスペースしか確保できなかったため
3. 急峻な傾斜地が多く、機械を導入した大規模な耕作が困難であったため
4. 標高が極めて高く、夏季の気温が上昇しないため稲の生育に適さなかったため
- 問6 九州地方の農業の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)
1. 宮崎県や鹿児島県では、シラス台地という火山灰由来の土地が広がっているため、農業産出額において畜産が占める割合が非常に高い。
2. シラス台地は保水力が非常に高いため、サトウキビなどの工芸作物を中心とした農業が行われている。
3. 九州南部は平野が広く水利が良いため、農業産出額のほとんどを米（稲作）が占めている。
4. シラス台地の地層は果樹栽培に最も適しているため、リンゴやブドウの産出額が全国1位となっている。
- 問7 鹿児島県や宮崎県などを中心に、肉用牛や豚、鶏などの飼育が盛んな地域が九州地方です。この地方の農業産出額における品目別割合において、最も大きな割合を占めている部門はどれですか。 (2025年 岩手県公立入試 類似)
1. 畜産 2. 野菜 3. 米 4. 果実
- 問8 沖縄県の竹富町などに見られる伝統的な家屋では、家の周囲を石垣で囲み、防風林を植え、さらに屋根瓦をしっくいで固めるといった工夫が見られます。このような独自の住居様式が発達した理由として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 大分県公立入試 類似)
1. 近隣の火山が噴火した際に、降り積もる火山灰の重みに耐えるため
2. 冬に吹く冷たくて強い季節風を遮り、屋内の温度を一定に保つため
3. 夏から秋にかけて接近・上陸する台風による強風の被害を防ぐため
4. 地震が発生した際に、振動による建物の倒壊や屋根瓦の崩落を防ぐため
- 問9 大分県で見られる火山の性質を利用した産業について、その特徴を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2025年 北海道公立入試 類似)
1. 火山灰が堆積したシラス台地の地形を活かして、大規模なダムを建設し水力発電を行っている。
2. 阿蘇山周辺のカルデラから湧き出る豊富な水を利用して、大規模な水力発電を主な電力源としている。
3. 由布院などの温泉街において、火山ガスの成分を化学工業の原料として抽出する産業が最も盛んである。
4. 別府などの豊かな温泉資源を観光に活用するとともに、地下の熱エネルギーを地熱発電に役立てている。
- 問10 日本の農業産出額の内訳において、ある県では「畜産」の割合が全体の約半分を占めており、米や果実中心の県に比べて圧倒的に高くなっています。このような特色を持つ、南九州に位置する県はどこですか。 (2019年 福島県公立入試 類似)
1. 新潟県 2. 鹿児島県 3. 愛媛県 4. 青森県
- 問11 宮崎県では、温暖な気候を利用したピーマンやきゅうりなどの園芸農業が盛んです。これらの作物の収穫時期を、他の地域よりも早めるなどの工夫を行う主な理由として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 夏の強い日差しを好む熱帯性の害虫が大量発生する前に、収穫を終えるため。
2. 冬に降る大量の雪が農作物の成長を妨げるのを防ぎ、春の間にすべて収穫するため。
3. 夏から秋にかけて発生しやすい台風の被害を最小限に抑え、安定した出荷を行うため。
4. 輸入農産物が最も安くなる時期に合わせ、価格競争で有利に立つため。
- 問12 九州地方北部の福岡県から佐賀県にかけて広がり、有明海に面している広大な平野があります。この平野は九州最大の稲作地帯として知られていますが、その名称として正しいものを選びなさい。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 仙台平野 2. 宮崎平野 3. 熊本平野 4. 筑紫平野
- 問13 九州地方の農業について述べた文のうち、筑紫平野で見られる農業の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2025年 京都府公立入試 類似)
1. 阿蘇山周辺の広大な草原や斜面を利用して、肉用牛の放牧や酪農が行われている。
2. 温暖な気候を利用し、宮崎平野を中心にピーマンやきゅうりの促成栽培が行われている。
3. シラス台地特有の水はけの良さを活かして、サツマイモや茶の栽培、畜産が盛んに行われている。
4. 広大な平野部の水田を活用し、夏には米を、冬には麦などを栽培する二毛作が行われている。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 宮崎県	宮崎県は、隣接する鹿児島県とともに日本有数の畜産地帯を形成しています。特に肉用牛の飼育が盛んであり、広大な土地と暖かい気候という条件が、大規模な畜産業の発展を支える背景となっています。
問2	答え 2 大分県	九州地方は全体として火山が多く地熱資源が豊富ですが、その中でも北東部に位置する大分県は、国内最大級の地熱発電所である八丁原発電所などを有し、地熱発電量が全国トップクラスとなっています。また、統計資料において、鹿児島県や宮崎県ほどではないものの豚の飼育が行われており、農業・工業・エネルギー産業がバランスよく展開されているのが特徴です。
問3	答え 4 年間を通じて気温が高く、1月と7月の平均気温の差は、内陸に位置する松本市などの都市と比べて小さい。	那覇市は低緯度に位置し、周囲を海に囲まれた海洋性の気候であるため、年間を通じて平均気温が高く、夏と冬の気温差（年較差）が小さいのが特徴です。これに対し、内陸にある松本市などは放射冷却などの影響で冬の冷え込みが厳しく、気温の年較差が大きくなります。また、那覇市は梅雨や台風の影響で降水量は多い傾向にありますが、時期や年によっては他の都市よりも少なくなることもあり、常に他の都市を上回るわけではありません。
問4	答え 4 促成栽培	宮崎県などの温暖な地域では、冬から春にかけて野菜を出荷できるよう、ビニールハウスなどで成長を促進させる促成栽培が行われます。これは、需要が高く供給が少ない時期に出荷することで、市場価格が高い状態での販売を目的とした工夫です。
問5	答え 1 土壌の水はけが良すぎて、水田に必要な水を保持することが難しかったため	鹿児島県から宮崎県にかけて広がるシラス台地は、過去の火山活動による噴出物が堆積して形成されました。この土壌は粒子が細かく非常に水はけが良い（保水力が低い）ため、稲作に不可欠な水を溜めておくことが困難でした。このような地理的条件から、水不足に強いサツマイモや茶の栽培、そして広大な台地を有効活用できる畜産業が発展し、現在では日本屈指の畜産地帯となっています。
問6	答え 1 宮崎県や鹿児島県では、シラス台地という火山灰由来の土地が広がっているため、農業産出額において畜産が占める割合が非常に高い。	鹿児島県や宮崎県の農業統計を見ると、豚や鶏、肉用牛といった「畜産」の割合が、他県に比べて突出して高いことがわかります。これは、火山灰が堆積したシラス台地という特殊な地形が広がっていることが関係しています。シラス台地は水もちが悪く稲作が困難であったため、その広大な面積を有効に活用できる畜産業が地域の基幹産業として定着しました。
問7	答え 1 畜産	九州地方ではシラス台地などの地形や温暖な気候を生かして、鹿児島県や宮崎県を中心に肉用牛や豚、鶏などを育てる産業が発達しています。そのため、農業産出額の品目別割合においても畜産の占める割合が最も大きくなっています。
問8	答え 3 夏から秋にかけて接近・上陸する台風による強風の被害を防ぐため	沖縄県や九州地方は、地理的に北西太平洋で発生した熱帯低気圧である台風の進路に当たりやすく、古くから強風や大雨による被害を受けてきました。特に強い風から家屋を守るため、風を遮る石垣や防風林を設けたり、風で瓦が飛ばされないようにしっくい固定したりするなどの知恵が、生活文化の中に根付いています。地震や火山灰への対策、または冬の季節風対策は、この地域の伝統的な家づくりの主目的ではありません。
問9	答え 4 別府などの豊かな温泉資源を観光に活用するとともに、地下の熱エネルギーを地熱発電に役立てている。	大分県では別府や由布院といった温泉地での観光業が盛んであると同時に、火山の熱を利用した地熱発電の発電量が日本一であるという特徴があります。阿蘇山は熊本県に位置する火山であり、また、水の落差を利用する水力発電は火山の熱利用とは異なる仕組みであるため、混同に注意が必要です。
問10	答え 2 鹿児島県	鹿児島県は、宮崎県とともに南九州の畜産地帯を形成しています。火山灰が堆積してできたシラス台地は水はけが良すぎたため、伝統的に稲作よりも畑作や畜産が行われてきました。現在では、肉用牛（黒毛和牛）、豚（黒豚）、鶏（ブロイラー）の飼育頭数が全国トップクラスであり、農業産出額の約半分を畜産が占めるという際立った特色を持っています。
問11	答え 3 夏から秋にかけて発生しやすい台風の被害を最小限に抑え、安定した出荷を行うため。	宮崎県を含む九州地方南部は、夏から秋にかけて台風の通り道になりやすく、農作物が暴風雨によって大きな被害を受けるリスクが常にあります。そのため、気象災害を回避するために収穫期を前倒しする工夫や、温暖な気候を活かした促成栽培が発達しました。これにより、他の産地の出荷が少ない時期に市場へ供給できるという経済的な利点も生まれています。
問12	答え 4 筑紫平野	福岡県と佐賀県にまたがるこの平野は、有明海の干拓や堆積作用によって形成されました。九州地方における主要な食糧生産基地となっており、特に米の生産が非常にさかんな地域です。
問13	答え 4 広大な平野部の水田を活用し、夏には米を、冬には麦などを栽培する二毛作が行われている。	筑紫平野は福岡県から佐賀県にかけて広がる九州最大の平野であり、古くから稲作と麦作を組み合わせた二毛作が行われてきました。他の選択肢にある「シラス台地」は南九州の鹿児島県に見られる特徴であり、「促成栽培」は宮崎平野の高知平野に見られる特徴です。地域ごとの地形や気候に適した農業形態を区別することが重要です。